

平成31年度の主要な施策（要旨）

※平成31年度の主要な施策の全文は西ノ島町ホームページ「ウェブ町長室」に掲載しています。



総合戦略関連について

「人の集う島へ、暮らしを彩るまち・ひと・しごと」の循環」と題した本町の総合戦略も最終年次を迎えることとなります。

これまでの取り組みの総合的な評価を行い、第2期となる総合戦略を策定するなど、地域の活性化、人口減少の抑止を目指して取り組みを進めてまいります。

「につぼんA級グルメのまち連合」について

昨年、「A級グルメのまち連合」として、新たな取り組みがスタートいたしました。

本町におきましては、地元食材や郷土料理を活用した取り組みを進めてまいります。

地域の活性化に様々な波及効果をもたらす重要施策として考えておりますので、スピード感をもって取り組んでまいります。

新庁舎整備について

新庁舎整備につきましては、敷地造成工事と建物関係の設計を進めており、基本設計も固まりましたので、現在は、実施設計に取り組んでいる状況であります。

順調に進みますと、11月頃には建物関係の工事発注が可能となりますので、計画通り進められるよう工程管理を行ってまいります。

防災関係について

（1）自主防災組織について

昨年度から、地域の方々が一緒になって防災活動に取り組む「自主防災組織」の推進に取り組んでおります。

高齢化が進む中、地域での見守り体制の構築や避難支援が重要となりますので、今年度も組織化の推進に取り組んでまいります。

（2）被災者生活再建支援制度の拡充について

昨年、島根県西部地震や7月豪雨、台風により、多くの住宅が被災し、被災者生活再建支援制度の拡充が検討されてきました。

その結果、4月1日からは、島根県と全市町村が協力して支援を行うような形となったことから、被災対象範囲の拡充や被災市町村の負担軽減に繋がる制度となったところであります。

産業振興について

（1）水産業について

まき網漁業は、近年、好調に推移しておりましたが、昨年は約16億円の漁獲高で前年比10%の減となりました。

水産業の中核を担うまき網漁業は、地域経済にとりまして大変重要でありますので、今後の豊漁に期待するところであります。

海藻加工施設は、3月からワカメ

の加工が本格的に稼働し、6月にはツルアラメの加工試作品の着手にも取りかかることとなっております。

地域資源の有効活用や増産体制の整備を進める一方、未利用海藻の成分調査や陸上養殖の実証実験などを継続して行い、活用資源の拡大と資源量確保に繋げてまいります。

水産物の加工では、流通の拡大や地産地消の推進を図るため、旬の味と鮮度を保ち、魚介類の付加価値を高める高性能の冷凍技術導入に取り組んでまいります。

離島漁業再生支援交付金事業につきましては、今年度が第3期対策期間の最終年度となります。

引き続き、種苗放流や販路拡大のためのPR等に取り組み、水産業の活性化を図るとともに、漁業者の所得向上を目指してまいります。

制度が創設されて以降、水産振興に大いに役立ててきたところで、第4期継続に向けても必要な働きかけを行ってまいります。

(2) 農林業関係について

畜産関係につきましては、子牛の取引価格が依然として高値で推移していることに加え、近年、4名の新規就農者が誕生するなど明るい話題もありました。

本町の特色である省労働・低コスト生産を進めるための公共牧野の整備、繁殖雌牛の保留・導入に対する支援、町有牛の貸付などを継続する

ことで、生産基盤の強化や増頭対策に取り組んでまいります。

林業関係につきましては、今年度も「分収林事業」や「ふるさとの森再生事業」により、健全な森林の育成に努めてまいります。

また、平成31年度から「森林環境譲与税」を活用し、林業の成長産業化の実現と森林資源の適正管理を目指した森林経営管理制度がスタートいたします。

間伐や木材利用の促進、人材育成・担い手の確保等、森林整備の取り組みに、有効かつ計画的に活用してまいります。

農林水産業における様々な施策を進めて行く中、従事者の高齢化や担い手不足が大きな課題であります。

全国的にも労働力の確保は厳しい状況ではありますが、基幹産業の発展を目指し、担い手となる人材の確保に努めてまいります。



▲西ノ島町畜産振興施設

(3) 観光関連について

昨年の入込客数は、台風や本土側の豪雨災害の影響もあり、伸び悩んでおりましたが、最終的には前年を若干、上回る客数となりました。

全体数としては微増ではある中、外国人観光客は、2倍を超える伸びを示しております。

ユネスコ世界ジオパークに認定されてから、徐々に認知度も向上しており、今年度は、香港から2組の修学旅行も予定されております。

今後も増加が予想される外国人観光客に対し、消費を促す案内の充実や、指差し会話帳などの普及を推進するとともに、ニーズ調査による改善を図りながら受け入れ体制の構築に取り組んでまいります。

また、定着してきたクルーズ客船の寄港につきましては、今年も外国船籍を含む6隻の客船が予定されており、乗船客の方々の満足度を高める取り組みを進めてまいります。

(4) 交流・イベント関係について

地域間交流につきましては、引き続き、江府町や堺市で開催されるイベント等に参加を予定しており、本町のPRと更なる交流の発展に繋がってまいります。

また、本年度も「とつて隠岐ツーデューオーク」や第7回目となる「西ノ島ハーフマラソン」など予定しておりますので、開催にあたりまして

は、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



▲昨年に寄港した「ブレーメン」

雇用対策について

本町でも各種就業人口や後継者の不足に加え、就業者の高齢化が大きな課題となっております。

新卒者雇用に係る支援策の継続や雇用機会拡充事業などの活用を促し、新たな起業や人材確保に繋がるよう取り組んでまいります。

昨年からは島根県では、隠岐地域を対象に、若者にとつて魅力のある雇用の場を創出するために、ソフト産業の企業誘致に取り組んでおります。

町としても、県が策定した誘致戦略、PRツール等を活用して、ソフト産業に重点をおいた企業誘致を行い、新たな雇用の場の創出に取り組んでまいります。